（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名　Leboのきいろ園B

公表日　2025年 12月1日

		チェックの項目	はい	いいえ	工夫していること	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用者数が事業全般要領のスペースとの関係で適切であるか。	5		適切に確保できています。	全般的可能が対応しつつ整理整頓を心掛けた。
	2	利用者数が一どもの対応面に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準配置以上、加配等申を適切すり配置を行っている。	応用を図りそれも、その他の設置者で也ついて、ですを日々配置を行う。
	3	支援現場は、どもにとってリラックスできるものとされた環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に合こ、バリアフリーなど円滑な運用、環境上の配慮が適切になされているか。	5	4	現場は運営の現場との配慮は適切に行っている。	バリアフリーなどではないため、スロープ等の設備を検討する。
	4	支援現場は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、どもの集団の関係に配慮された環境となっているか。	5		衛生面を保安しており、事業所間でのお活動についてのお話を行っている。	
	5	必要に応じて、どもが専門的な設置や機器を使用することが日常的な活動になっているか。	5		相談支援専門員が専門的な面、設置を使用ことが日常的ないため、専門する必要がある。	相談支援専門員が専門的な面、設置を使用ことが日常的ないため、専門する必要がある。
業務内容	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（計画策定と振り返り）など職員が実施しているか。	5		月に一度のミーティングの際に行っている。	
	7	保護者などへの評価により、保護者等の意向等を把握する体制を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向けのアンケートを行っている。	今後、保護者等の意向を尊重して業務改善に努めていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		月に一度のミーティングの際に行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		第三者による外部評価は行っていないため、今後の業務改善につなげるために検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内部で研修を開催する機会が確保されているか。	5		入社時に基礎研修を行い、月に一度、勉強会を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムの作成、公表を行っている。	プログラム内容の修正を検討する。
	12	最小のどもに対してアセスメントを適切に行い、どもと必要な環境面のニーズや課題を把握されているとともに、放課後等デイサービス計画案を作成しているか。	5		保護者、児童のニーズを把握したと作成を行っております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、どもの全体像に関する職員が共通理解のもと、どもの最良の利益を考慮した検討が行われているか。	5		担当者会議を開催し、内容の理解のもとで検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画の実施状況に沿ったサービスが提供されているか。	5		計画に沿った支援が行われています。	
	15	どもの成長の過程の把握、標準化されたスケールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察などを通じインフォーマルなアセスメントを適切な頻度で実施されているか。	5		日々、利用者の状況に対応できるようなアセスメントの実施・支援の内容を策でもいつでも変わるようにしている。	独自で作成した方の方を使用しているため、今後検討したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインにある「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「関係者支援」、「地域支援・地域連携」のなかから、日々の提供内容を踏まえながら、どもごとの必要な課題が明確に設定され、それぞれ、具体的な支援内容が設定されているか。	5		基本的に内容は網羅されています。	「本人支援」、「家族支援」、「関係者支援」及び「地域支援・地域連携」という項目は、しておりません。
適切な支援の提供	17	支援プログラムの立案をチームで行っているか。	5		定期議員がやっとなり、プログラムを作成している。	定期議員にも参画する機会を検討する必要がある。
	18	支援プログラムが固定化しないように工夫しているか。	5		新しいサービスを考え、親子で参加できる活動を企画中である。幅広い活動を考え活用者に提供できるように工夫している。	定期議員にも参画する機会を検討する必要がある。
	19	どもの状況に応じて、個別支援と集団活動を適切組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		各利用者に合わせて個別、集団のサービスを与えて作成している。	
	20	支援開始前には職員間で合同で行うなどし、それ以降においても支援の内容が毎月会議で共有していて確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援開に至ステップで行与合わせ行っている。	長期休み期間中などに行与合わせ会議は毎日之中、あり方のいてっているため、検討が必要。
	21	支援「1時」には、職員間でお手伝い合うなどの工夫がされているか。（中学校下校時間などを考慮して、どもの安全を確保するため、1時間の支援を行っている。）	2	3	終了時は行っておりず、個別の時も例の時しあり与合わせ行っる。終了時のお「ちょ」の与合わせ行う時間なし。	終了時は行っておりず、個別の時も例の時しあり与合わせ行っる。終了時のお「ちょ」の与合わせ行う時間なし。
適切な支援の提供	22	どもの成長に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援の記録を取ることは徹底しており、保護者等に報告を行っている。	支援の内容について付き時に はなっていなかっていて、そこを検討する。
	23	支援内容をこのシンプル化し、放課後等デイサービス計画の見直しを適時、適切に実施しているか。	5		最低年に一度をこのシンプル化し、支援方法の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「５つの基本活動」を適時組み合わせて支援を行っているか。	5		「自立支援」「日常生活の充実のための活動」「社会活動」「地域に向け開かれた支援」「家族支援」の支援を行っている。	
	25	どもが他の活動でできるような支援の工夫がされているか。例）学校を中心とした関係づくりができるよう工夫している。	5		学校・SSW（スクールソーシャルワーカー）・スクールカウンセラーとの連携を取っている。子どもを他のどこ、ちができるよう工夫している。	
適切な支援の提供	26	保護者相談支援要領内のサービス提供者支援や関係機関との協議、そのどもの状況など理解し、共有が図っている。	5		一個別ごとの多い。理解している場合が多いっている。	
	27	放課後の送迎、見守（主体的で安全な環境確保）、居場所は、学校、家庭等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		保護現況、家庭は連携できている。	保護現況に関しては連携がまだまだ大きくできていない現、検討する。
適切な支援の提供	28	学校との情報共有（加配関係）・応答学校側の支援、どもの下校時刻の確認）、連絡調整（緊迫時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		電話で行っている。	なかなか連携が取れない学校に関して、今後検討していく必要がある。
	29	放課後に利用しているお現用や知識面、設定などの面、児童発達支援事業所等との相互情報共有と相互理解に努めているか。		5	現在、放課後に利用していた児童用には設置の取れていない為、今後検討できるよう改善の検討を行う。	現在、放課後に利用していた児童用には設置の取れていない為、今後検討できるよう改善の検討を行う。
適切な支援の提供	30	学校生活等と、放課後等デイサービスや保護者間で、必要に応じてスーパーバイズや助言や保護者間で情報を共有しているか。	5		年のスーパーバイズが年に一度は開いているだけです。	現在、対応者がいないが、今後も同様に連絡体制を取っていく。
	31	放課後児童クラブや児童館などの交流や、地域の他のどもと児童や活動交流をしているか。		5	現在交流を 会場交は設けることができていない為、今後交流 会場交を設けることができるよう検討する。	現在交流を 会場交は設けることができていない為、今後交流 会場交を設けることができるよう検討する。
	32	「放課後通信」を発行し、地域の方に情報を提供している。	5		年の為の通信や年間等に活動内容を提供している。	
	33	日頃からどもの状況や保護者と伝えたい、どもの情報の状況や課題について保護者に伝えている。	5		連絡帳に保護者とコミュニケーションを取らせてもらっている。	
	34	家族のお出かけなど地域活動プログラム（例：ボランティア活動・ハイキング・ニニ公園）や家族間の交流できる機会の確保や情報提供を行っているか。	2	2	保護者向けに放課後の家族や地域の交流活動についての説明を実施した。	
適切な支援の提供	35	虐待防止、安全プログラム、利用者向け説明について年に1回研修を行っている。	5		年の初に虐待等研修を行い、年に1回研修を行っている。	
	37	放課後等デイサービス説明を作成する際には、どもや保護者の要望の整理、どもの成長の状態の観点や現在の観点を踏まえて、どもの年間の目標や個別支援計画を作成しているか。	5		面談を行い、個別の確認や 会議を実施している。	
	38	「放課後等デイサービス記録」を、もれなくかつ適切性の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画書に関して、文書内容の説明を行い、同意を得ている。	
保護者への説明責任	39	事業所からの子育ての悩みや取り組みや保護者に相談に応じ、面談や必要に応じ支援を行っているか。	5		定期的に面談だけではなく、相談を受けた場合は必ず面談やお電話一本を行っている。	
	40	公開の日の活動を支援するなどで、保護者自身を解放する機会により、保護者同士で交流する場合を設ける場合の支援をしているか。また、チュウたい祭などで交流する機会を設ける場合の支援をしているか。	5		保護者間交流のイベントを開催し、チュウたい祭とか、保護者同士で交流できる機会を設けている。	
	41	どもや保護者からの苦情について、対応の結果を整理するとともに、どもや保護者に開示し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	5		苦情対応マニュアルを作成し、できるだけ日々の出会うなどに解決するように努めている。	
	42	定期的に通信を発行するなどで、HPやSNS等を活用することにより、活動内容や行事予定、連絡事項や情報をどもや保護者に対して発信している。	4	1	ブログやInstagramにて発信を行っている。	SNS使用に当たっての注意事項をより強く伝えていく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意している。	5		個人情報の重要は設計者の事務所の設計や書類に保管しています。	
	44	家族のあるどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		連絡ノートなどでの行与合う等に配慮をしている。	
	45	事業所の計画に地域住民を招待する場、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	法人の行事では あるが、地域住民を招待する会を行う機会にしている。	事業所単位で可能か検討を行う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアルを常備し、職員が緊急時に実施できるように、職員を定期的に訓練実施している。	5		常設をしており、訓練常実施しているが、マニュアルの内容や保護者等に周知徹底を行っていない。	保護者等に緊急事態訓練や事故時対応を行う。
	47	事故報告書（ヒヤリ・ハット）を策定するとともに、非常事態の発生に備え、定期的に訓練（防災や消火訓練）を行っているか。	5		定期的に訓練、研修を行っている。	ECMOの問題についての問題。
	48	事故に、緊急で予防措置、てんかん発作等のどもの状況を確認しているか。	5		日常的に保護者等と確認をしている。	
非常時等の対応	49	食物アレルギーがあるどもについて、医療の指示書に基づく対応を行っているか。		5	アレルギーについては保護者様から預ろう預っていはおりて、医療の指示書に基づき対応は出来ていません。	保護者様にできるだけ医療の指示書等の提出を医療者様に求める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる場、安全管理が十分されたサービスを提供されているか。	5		安全管理に必要な研修、訓練等を行っており、安全管理が十分されている。	保護内容等の見直し を検討する。
	51	どもの心や安全を図り、「非自閉の環境」を確保する場、適切な対応をしているか。	5		空ての保護は 認知しあれている。	適時な認知・温度の要求の確保、 応対時の必ず安全計画についての検知を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット報告に、再発防止に向けた対策の記録をしている。	一緊迫した事例に関して見直しが必要あるケースを検討する。
	53	虐待を発見するため、職員の研修機会を確保する場、適切な対応をしているか。	5		虐待防止委員会を設置し、入社時と全体的な年一度の上級研修が研修を行っている。	研修の頻度を上げていく検討する。
	54	どもが「自閉の日」や「自閉の環境」を提供する日などについて、組織的に決定し、どもや保護者に事前にきちんと説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に反映している。	5		事前説明通知 会の開催で組織的に決定している。	事前説明を行っていないため、今後検討する。
	55	自閉の日の活動内容や自閉の環境の提供内容について、どもや保護者に対して、説明を行っているか。	5		自閉の日の活動内容や自閉の環境の提供内容について、どもや保護者に対して、説明を行っている。	自閉の日の活動内容や自閉の環境の提供内容について、どもや保護者に対して、説明を行っている。